

ゴールドダイアログ スピーチ案

題：明日に架ける橋 (Bridge over troubled water)

ご来賓の皆様、紳士淑女の皆様、おはようございます。

日本の海上自衛隊幹部学校から参りました戦略研究室長の平山 1 佐です。

本日は、このゴールドダイアログの場をお借りして、我々海上自衛隊とは何か、我々はなぜインド洋に来航するのかについて、短いプレゼンテーションを行う機会を得ましたことを大変光栄に感じております。

皆様、私は東アジアから参りました。アジア太平洋地域は現在の世界経済の中心です。世界の GDP の第 1 位から第 3 位の国がこの地域に集まっています。同時に、この地域は大きなリスクを抱えた地域でもあります。冷戦構造の残滓が残り、著しい経済成長と共にそれに呼応した軍事力の強化が行われています。数多くの領土紛争、海洋資源を巡る争いがあります。我々日本人はそのような東アジアから、インド洋を見てきました。

日本から見れば、西には東シナ海があり、その向こうに南シナ海があり、マラッカ海峡を抜けて西にさらに進むと漸くインド洋そしてスリランカにたどり着きます。波高き太平洋から見れば、インド洋は平和で遠い海だったのです。しかし、現在はそうではありません。我々はインド洋には固有の様々なチャレンジがあり、必ずしも平和ではないこと、東アジアの我々とインド洋の安全保障はグローバル化した海洋交易路を通じて分かちがたく結びついており、最早遠い海ではないことを理解しています。

経済のグローバル化が進むにつれ、経済的な相互依存関係が深まると同時に、海上交易への我々の依存も高まっています。海上交通線はかつてないほど重要になっています。アジア太平洋の経済発展は、インド洋を経由した海上交通、特にエネルギー輸送に依存しています。世界の海上コンテナ輸送の半分がインド洋を経由しており、エネルギーの 3 分の 2 がインド洋を横切ります。インドを始めとするインド洋湾岸諸国の発展も見逃すことはできません。インドが経済的に日本を上回る日が来ることを疑う人はいません。欧州から米国へ、そしてアジアへと移動したグローバル経済の重心は将来どこへ向かうのでしょうか。

インド洋はこれまで、日本にとっては遠い海でした。しかし、グローバル経済の下、インド洋で問題が起きれば、それが極東の島国に大きな影響を与えるという意味で、インド洋は日本にとって、もはや遠い海ではありません。日本にとって、インド洋とは、そこにある目に見える挑戦、「我々の」問題なのです。

我々の中の距離の変遷を表すキーワードの一つが「インド・太平洋(Indo Pacific)」です。これはここ数年にポピュラーになった概念で、2010年に米国のクリントン国務長官が言及し、日本の安倍首相も2013年のスピーチで言及しています。私は学者ではないので、インド太平洋の定義について詳述はさけますが、西太平洋、東アジアからインド洋を抜けて南アジアに至る領域が今や一つのアーク(arc)で語られる時代が来たということは言えると思います。私の視点ではスリランカは地球の裏側に近いところにあるのですが、これは20世紀的視点なのでしょう。我々の子供たちは、日本とスリランカは同じ小さなコミュニティの隣人同士と思う可能性もあります。

このような経済空間の変化は、安全保障空間の変化をもたらすでしょう。日本の安全保障空間はもはや主権領域に限定されていません。それどころか、日本本土から世界中へと広がっています。なぜなら、日本は海洋国家であり、勤勉な日本人を除けばほとんど資源を持っていません。そして、日本は輸出入貨物の99.7%を海上輸送に依存しており、それゆえ海上交通線は我が国の経済及び国民生活を支えるライフラインになっています。その海上交通線、代替えのできない日本のライフラインがマラッカ海峡からインド洋を横切って湾岸や欧州に伸びているのです。

この海上交通線の安全は日本の死活的利益です。2013年に定められた日本の国家安全保障戦略は、日本は海洋国家(a maritime state)であり、「開かれ安定した海洋 Open and Stable Sea」を追及すると宣言しています。では日本は如何にして「開かれ安定した海」を具現するのでしょうか。近代(モダン)において、海洋国家は、海洋安全保障はパワーにより確保しました。パックスブリタニカを支えたのは英国の海洋パワーです。しかし、我々は今日、ポストモダンな世界に暮らしており、ネプチューンの領域は力ではなく国際法を基盤にした平和的な手段、対話により定義されるべきと考えます。その点で、インド洋海域においては法の支配が保たれていることを称賛したいと思います。この点、アジア水域では力による現状変更という時代錯誤的な試みがあることを誠に残念であると述べなければなりません。

日本はポストモダン国家であり、力による現状変更に断固として反対しています。海上自衛隊は国際法に基づく海洋秩序の維持を支援するため、インド洋域内各国との海洋安全保障協力を推進します。

国際社会には、国際テロ、貧困や統治機構の脆弱化といった複数の問題が複雑に絡み合いながら、国境を越えた安全保障問題に発展する傾向があります。

そして、こうした問題に対しては各国が協力して取り組みことが必要となっています。具体的には、国際平和協力活動に取り組むと共に、同盟国などと協力して国際テロ対策、海賊対処活動などを推進していく必要があります。

現在、世界の主要海軍国が協力して、ソマリア沖で海賊からの商船の護衛を行っています。一国で船団を護衛する国もあれば、EUのように多国籍の部隊を編成して船を護衛し、あるいはコリドーをパトロールする場合があります。軍艦を送り込んでいる国もあれば、日本の様に護衛艦に加えて哨戒機を派遣している国もあります。部隊の規模や部隊運用は国情に応じて様々ですが、海賊対処という一点で国際社会の努力は一致しています。海賊はグローバルな通商路、いわば公共財に対する重大な脅威であり、このため、本国での対立を超えて、各国のシー・パワーが協力しあうのです。掲げている旗が違って、海洋における自由で安全な航行と世界経済を支える海上通商路を守るため、我々は協力することがすでにできているのです。これは素晴らしいことです。我々日本は、このような取り組みをサポートします。

しかしながら、我々日本が本地域における活動を強化することは、我が国がプレゼンスを強化するということを意味しているわけではありません。

ある日本の外交官が私に、良き軍人であると同時に、良き庭師であってほしいと言いました。国と国が仲良くすると、共通の庭（コモンガーデンズ）というものがお互いの間にできることがあります。コモンガーデンズは平和で美しい庭です。しかし、この外交官はこの様な美しい庭園が自動的にできると思うのは幻想であると述べました。国際協力という美しい庭を維持するためには「良い庭師」が必要で、これこそが海軍の役割だと彼は述べたのです。

庭園というのは、絶えず手入れが必要です。庭園というのは、本当に微妙なものです。庭園を鑑賞に堪えるようなものにしていくためには、勤勉な「庭師」が必要です。「庭師」というのは、本質的に寡黙であり、普段は目につかない人たちです。彼らは、とても一生懸命、絶えず仕事をしています。しかし、ほとんどの仕事は庭園が閉まってからするわけです。人が見ていない時に、水やりをしたり、枝を切ったり、肥料をあげたりします。目を離すとすぐに雑草がはびこってしまいます。インド洋を美しい庭園にするためには、域内の海軍が良い庭師になる必要があります。

そして、私も良い庭師の仲間に入れてください。海上自衛隊は、インド太平洋でパワープロジェクションをすることは無いでしょう。我々が強大なプレゼンスを誇示することも無いでしょう。我々のフットプリントは限定的なものです。我々はグローバルコモンズの安定のためにインド洋に来るでしょう。我々は自然災害等で窮地に陥った皆様を助けるために来るでしょう。我々は皆様を

助けるために、ここにいるのです。

私はサイモン・アンド・ガーファンクルが好きです。私が特に好きな歌は「明日に架ける橋」です。

インド太平洋は比較的平和な海ですが、その縁辺部にはソマリアがあり、テロの問題も考えると課題を抱えた海(troubled water)であると思います。疲れ果て、途方に暮れている人(they' re weary, feeling small.)は居ないでしょうか？我々海上自衛隊は、皆様のための橋になりたいのです。我々は「明日に架ける橋(Bridge over troubled water)になりたいのです。それこそが、インド太平洋の平和と安定の最大の受益者である日本の役割、責務(obligation)ではないかと思うのです。日本は、海上自衛隊は皆様と共にあります。我々は皆様のために庭師に、橋になりたい、そう願う者です。

Dec 2014

Captain S Hirayama

Director of Strategic Studies Office

JMSDF Command and Staff College, Japan

For Galle Dialogue 2014/Unclassified/distribution unlimited

Bridge over troubled water

Distinguished guests, Chief of the Navies, admirals, ladies and gentlemen, good afternoon.

I am Captain Hirayama, Director of Strategic Studies Office, Japan Maritime Self Defense Force Command and Staff College.

I have the pleasure of talking to you today about “who we JMSDF are” and “why we are here in the Indian Ocean”.

Ladies and gentlemen, we come from the East Asia. Today, the Asia-Pacific region is center of global economy. We have No.1 to 3 economic superpowers in this region. Quite unfortunately, it is also the region that has substantial risks. There are a number of territorial disputes, conflicts over maritime resources. We Japanese have observed the Indian Ocean from such promised and troubled region.

If you were in Japan, you will see the East China Sea in the west; beyond the East China Sea you will find the South China Sea, beyond the Malacca Strait, you will arrive the Indian Ocean and Sri Lanka. From restless Pacific, the Indian Ocean looked peaceful but distant water, but not anymore. Today, we recognize that this region has unique challenges thus not necessarily peaceful; and the East Asia and the Indian Ocean are closely connected through globalized maritime trade therefore the Indian Ocean is not distant water.

With advancement of economic globalization, economic interdependence has deepened and our dependence upon maritime commerce has increased. Sea line of communication is becoming a matter of utmost importance. Economic development in Asia-Pacific heavily relies on maritime commerce that runs

through the Indian Ocean, especially transportation of energy resources is vital. Around half of maritime container shipping is traveling the Indian Ocean, two third of energy resource is being shipped in the region. Development of the Indian Ocean states including India can hardly be underestimated. No Japanese will question that India will be a bigger economic super power than Japan in near future. I sometimes wonder where future center of global economy will be. In 20 century it moved from Europe to the United States, today we can find it in Asia, but in the distant future, where will we find it? Possibly somewhere between Asia and India?

The Indian Ocean was distant water for most Japanese. But no more. Because we understand that if something goes wrong in this region, it will give significant damage to island nation in the Far East. The Indian Ocean is not distant water for Japan, if it has present and visible challenge, and it is “our” challenge.

One of keywords that represent distance between us is Indo-Pacific. This term has been popular these days, and U.S. Secretary of State Mrs. Clinton mentioned it in 2010, and our Prime Minister Abe stated in 2013. I am not academic so I don't explain in full detail about definition of Indo-Pacific but I can tell that time is coming to discuss the region that encompass West Pacific, East Asia, Indian Ocean and South Asia as a single arc or single domain. From my perspective, Sri Lanka is remote state, almost other side of globe. However, it is likely that our sons and daughters will recognize Japan and Sri Lanka as neighbors in same community.

The transition in economic sphere could lead us to transformation in security space. Japan's security space is no longer limited within Japan's sovereign territory, it is extended from mainland to worldwide.

Japan is a maritime nation and we have little resources except diligent work force. Japan depends 99.7% of import and export on maritime transport, therefore sea line of communication is our vital economic lifeline that sustain people's life. This very lifeline, Japan's lifeline that has no alternative, has extended from Japan, through Malacca, and traversed the Indian Ocean toward the gulf or Europe.

The safety of sea line of communication is our national interest. Japan's national security strategy published in 2013 articulates that Japan is a maritime state and pursues “Open and Stable Sea”. In that case, how will Japan

materialize Open and Stable Sea? In modern world or 20th century mindset, modern maritime power secured maritime security by power. It was might of British maritime power that enabled Pax Britannica. However, we are now living in the post-modern world, we understand that realm of Neptune should be governed by peaceful means based upon international law and dialogue. From that view, I would like to praise states in this region for maintaining rule by law. I have to admit it is really pity that we still have anachronism i.e. attempt to change status quo by power in the Asian waters.

Japan is postmodern state and we are absolutely against any attempt to change status quo by naked power. We JMSDF will promote maritime security cooperation with the Indian Ocean states in order to support and sustain maritime order by international law.

Today's international society has a certain trend that various challenges i.e. international terrorism, poverty, fragile governance get intertwined and develop into security challenges that cross national borders. In order to meet these challenges, we have no choice but cooperate with other nations. To be concrete, we have to tackle international peace keeping operations, anti-terrorism efforts and anti-piracy operations in concert with allies and friends.

Today, naval powers from all over the world have been cooperating and escorting merchant fleet off Somalia. Some navies escort convoys unilaterally, others like EU forms multilateral force and escort ships or patrol the corridor. Some send ships and others including Japan send not only ships but also maritime patrol aircrafts. Force structure and operational procedure of each navy could vary, but focus of efforts by international community is consistent; suppress piracy. The piracy is grave threat toward global commerce or global commons, therefore global sea powers are willing to consolidate despite their conflicting issues in home waters. Although we have different flags, we can cooperate each other to safeguard safe navigation for global economy. It is great thing. We, Japan, support this initiative.

We will make our commitment more active in this region; however, it does not necessarily mean we will build up substantial presence here.

One retired Japanese diplomat once asked me to become good warfighter and good gardener. When relation between nations develops, there would be common space, or common garden. The common garden is peaceful and

beautiful space. But he pointed out that it is fantasy to think that such beautiful garden will develop automatically. Instead we need good gardeners to develop and maintain beautiful garden or international cooperation, and he stated it is a role of navy.

The garden needs constant maintenance. Such garden is really delicate. And in order to maintain a garden for admiration, you need diligent gardeners. Good gardeners do not speak much, they are moderate. But they are hard workers, and most of their works would be done after the closing time. When sight seekers are absent, these gardeners give waters, trim the branches and put fertilizer. If you fail to keep an eye, weeds will come up everywhere. So if we want to make the Indian Ocean a beautiful garden, regional navies have to become good gardeners.

And If I may, please join me in fellowship of good gardeners. We JMSDF will not project power toward the Indian Ocean. We will not demonstrate substantial presence in this region. Our foot print is and will be fairly limited. We come to the Indian Ocean to contribute stability of global commons. We will come to help you if you are in trouble with natural disaster. We are here to help you.

Simon and Garfunkel is my favorite musician. Song I love best is Bridge over Troubled Water. The Indian Ocean is relatively peaceful sea, but it has Somalia on its periphery and if we count on international terrorism, the Indian Ocean could be troubled water. Don't we have people who are weary, feeling small? We JMSDF want to become a bridge for you. We want be a bridge over troubled water. Because it is our role and obligation as a largest beneficiary from peace and stability of Indo-Pacific. Japan and JMSDF is always with you. We are ones who wishes to become a gardener and a bridge to you.

Thank you.